

限りなく死に近い恍惚

霧雨の囁き

耳たぶの柔毛を震わせる微風

夜更けの寝覚めの神経をいたわる血流

しんしんと負の音を立て降り積もる雪の夜

夜明けと共に咲く朝顔の挨拶

暗い湖面が白らむ頃のスイレンの目覚め

草原や森を渡る緑の風の足音

葉が絡み合う舞踊の波動

巨木の樹液のリズミカルな物語

それを聞く鳥たちの感激とため息

遠く離れて カッコウの懐古的な反省

好きな人の体の密やかな呟き

内蔵の動き

呼吸して蠢き始める私の内蔵

甘い共鳴と蠕動

紅白の金魚の尾鰭の衣擦れ

喉の深部の声以前のもの

血流と体液のさざ波

裸電球の喘ぎ

闇の中の肌の吸着

新細胞の増殖の軋み

全血液の沸点到達

収斂する加速度的落下

微かに白い壁たちの慰め

動かぬカーテンの襞の視線

細いパイプを伝う流水

皮膚の潤いの広がり

好きな人の瞳の開閉

睫毛の微動

音なき闇の接近音

眠りの呼び声

その罅

そして太古へと遠のいて行く